

「転ばぬ先の杖」土手

先日、財務ソフトメーカー(株)TKC開催の「経営支援実務研修会」に参加してきました。弊所は新しいメンバーを加えて新体制となり認定支援機関として何ができるのか、顧問先様へのさらなるサービス向上に向けて、勉強をしてきました。まず1つ目テーマは「経営支援実務」です。経済産業省が推進する、現状の経営状態を把握するためのツール「ローカルベンチマーク」の作成から、将来の経営計画策定までの手法です。2つ目のテーマは、「事業承継支援の実務」です。30年4月に新設された「特例事業承継税制」を含めた、顧問先様の事業承継を支援するための手法です。色々と聞きなれない文言を並べてしまいましたが、日々勉強と実践によって知識を積み重ねていき、全力で取り組んでいきますので、担当まで何でもご相談いただきますようお願いいたします。



今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【MaaS (マース)】

車などを所有するのではなく、使いたいときにその分の代金を払って利用する移動サービスのこと。「Mobility as a Service」の略でシェアリング・エコノミーのひとつの形とされる。海外では「Uber」や「滴滴出行」といった配車サービスが急速に普及しており、日本国内でもカーシェアリングが認知されつつある。これまで新車販売を収益源としてきた自動車メーカーはビジネスモデルの転換を迫られ、この点でも注目されている。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【リーダーシップとバイタリティの人「伊藤博文」】

初代内閣総理大臣として近代日本の基礎を築いた伊藤博文は1814年、現在の山口県光市で農家の長男として生まれました。



勤勉だった父は、その人柄を見込まれて長州藩士・伊藤家の養子となり、博文も利発さを見いだされて勉学の機会を与えられると一時は松下村塾にも籍を置きました。木戸孝允らと攘夷運動に参加した博文は、ここでも頭角を現します。その後、長州藩家老の計らいで、22歳の頃に井上馨らとイギリス留学に旅立ちます。当時のロンドンには蒸気船が停泊し、街中には工場が建ち並び、蒸気機関車も走っていました。近代文明を目の当たりにし圧倒された博文は、日本国内で攘夷にこだわる愚かさ

に気付き、開国して日本の近代化を目指そうと考えを改めたのでした。26歳で大政奉還を迎えると、実力を買われてその後も順調に出世道を進み、27歳で初代兵庫県知事、30歳で岩倉使節団の副使として渡米、44歳で初代内閣総理大臣に就任します。理想の国作りに向けて、国家予算や議会制などを盛り込んだ大日本帝国憲法の起草も手掛けました。60代で活動の場を韓国に移すと68歳で凶弾に倒れるまで、強いリーダーシップと驚異のバイタリティで働き続けました。「人は誠実でなくては何事も成就しない」という博文の言葉からは、国の未来を思い真っすぐに情熱を注いだ様子が感じられます。

今を生きる
先人の言葉

何腹がへつたら
何でもうまい

華厳宗の僧侶・東大寺の住職である清水公照の言葉。何でもある満ち足りた状態では「普通」のありがたみに気がつきにくいものだ。平穏な日々感謝する心を大切に。

トレンドを斬る!

座り過ぎによる健康被害対策としてスタンディングデスクを採用する企業が増えています。そんな中、座っていても体の動き

を止めないコクヨの椅子「ing」が脚光を浴びています。座面が体の微細な動きに合わせて360度スイングし、ブランコのように揺れて肩や腰の筋肉の働きを促進しながらカロリーを消費します。また体の揺れによりα波やβ波が増えて脳が活性化するため仕事の効率もアップするそうです。いよいよ始まる「働き方改革」の一翼を担うといいですね。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント: 【どこにお金をかけますか?】

入ってくるお金を増やすか、出ていくお金を減らすか。これは商売を改善するためのひとつの考え方です。入ってくるお金が増えなければ、出ていくお金を抑えるしかない節約に励む家庭の主婦同様、商売でもコスト削減は必須ですが、むやみなコスト削減は社内の士気を下げ、社員のやる気が低下すれば生産効率も低下します。どこを削って、どこにお金をかけるのか。その見極めに悩む経営者は、節約上手な主婦の発想を参考にしてみてください。

家庭の主婦であれば、どんな状況下でもまず守るべきは家族だとしっかり認識しています。家族を守ることの筆頭は健康です。どんなに食費を切り詰めても、その範囲で可能な栄養バランスを考え、節約料理のバリエーションに知恵を絞ります。今はディズニーランドに行けなくても、健康でさえあればいつか家族全員でミッキーマウスと記念写真を撮れるでしょう。その日のために家族の健康を守るべく、主婦は今日もチラシをくまなくチェックして、底値を求めて遠いスーパーまで自転車を走らせるのです。商売が繁盛しているある会社の社長は、さぞかし豪華だろうと思いきや、外観も室内も拍子抜けするほど地味で殺風景。その理由を尋ねると「お客さまへのサービス提供と関係ないものには一切お金を使わない



主義なんです」とのこと。例えば会社の内装にお金をかけてしまうと、提供するサービスの価格も高くしなくてはならない。価格を高くすれば宣伝広告も必要となり、それに伴い仕事量が増えてしまう。その社長は効率を重視した仕事ぶりで知られていますが、顧客のためにならない出費はしないというポリシーが効率化の最大の柱だそうです。あなたは、誰のためなら節約料理のバリエーションを増やそうと思えますか? 何のためなら遠くのスーパーまで自転車を走らせることができますか? 節約上手な主婦の発想を参考にすれば、最終的な目的を明確にすることで、お金をかけるところ・削るところの見極めがつくのではないのでしょうか。

トナリの

本棚



【大家さんと僕】

手塚治虫文化賞短編賞を受賞したエッセイ漫画。芸人・矢部太郎と大家さんとのユーモアあふれる交流を描いた作品です。住む世界が違う2人が、いつしかかけがえのない存在になっていきます。心がじんわりと温くなる素朴な一冊です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎